

(第3種郵便物認可)

WEB-WING

コロナ禍による売り上げ減に苦しむ飲食店などを支援し

ようと、大垣市のアプリ開発会社「WEB-WING（ウェブウイング）」は、店のメニューや商品を電子チケットにして前売りするサービス「ショップチケット」を始めた。喫茶店のコーヒーチケットのように、十回分の料金で十一回分のサービスを受けられるなど、特典付きの販売もできる。羽田敏也社長（五〇）は「行きつけの店を応援したい」と客の思いにつなげられれば」と意義を語る。

店側に必要な機器はスマートフォンのみ。サービス内容や販売額、回数、使用期限を設定するとQRコードが作られる。客がチケットを購入する際は、現金やクレジットカードなどで代金を支払い、スマホでQRを読み取ること、自身のスマホにチケットが登録される。チケットを使う際は客がスマホに表示されたQRを店に提示し、店側が読み取ると、残り回数が一つ減る仕組み。

コロナ禍による外出控えで、飲食店などは新規客の獲



電子前売りチケットアプリ

客足減る店舗を支援

得が難しい状況に。そんな

中、羽田社長は喫茶店のコーヒーチケットに着目。常連客らをターゲットにしたチケット販売なら、店側は前もって売り上げを確保できる。客も割安でサービスを受けられ、双方にメリットがある。県がウィズコロナ時代の新たなITサービスの開発を支援する事業に採択されて製品化を進

め、五月に運用を始めた。

同様のサービスは決済企業などが提供しているが、チケット発行に第三者が関わることで自由に運用ができず、手数料がかかるケースも多い。ショップチケットでは月額費用のみで自由にチケットを発行できる。ウェブサイトをアプリのように使える技術「P



ショップチケットの紹介サイトのQRコード

WA」を活用したことで、維持管理がしやすく、客がスマホ上でアプリと同様に利用できることも特長とした。

これまでに九州のパーソナルジムで導入。羽田社長は「客の世代が変わり、スマホ中心の社会になっていく中で、小規模事業者もどこかのタイミングでのデジタルトランスフォーメーション（DX）は避けられない。その手伝いをしたい」と話す。

（芝野享平）



前売り電子チケットサービス「ショップチケット」をPRする羽田社長。大垣市今宿のウェブウイングで

WEB-WING 2019年9月創業。企業からの受注でアプリやウェブサイトを作成している。従業員4人。資本金500万円。ショップチケットは初期設定費用が3万3000円、月額8800円など。☎WEB-WING=0584(84)7739



バス停カードを紹介する濃飛バスの担当者。中日新聞高山支局で

バス停を回ってカードもらおう

濃飛バスが新企画

濃飛バスは一日、飛騨地域の三市一村と中津川市にある同社のバス停を主役にした「バス停カード」を配る企画を始めた。同社のバスに乗車し、車内前方の運賃表示画面に示されるキーワードを窓口で言うと、無料でカードをもらえる。バスを楽しみながら利用してもらおうと、初めて企画した。カードは縦八・八センチ、横六・三センチ。表にはバス停の写真、裏には名前の由来などを載せた。全二十種類あり、利用者数などに応じて「五つ星」から「一つ星」にまで分類して、希少性を演出している。

カードの配布場所は、高